

## 日本トラベルフェアの活況に見るインドネシア人の訪日需要

割石 俊介

今年も日本トラベルフェアの季節がやって来ました。日本をめぐる国際関係には不安定な要素もありますが、日本旅行の需要は相変わらず旺盛です。2016年の訪日旅行者は27万人ですが、2017年は35万人と予測されています。

## ＜8・9月は日本向けトラベルフェアのシーズン＞

そのような中、8月25～27日に開催された日本政府観光局（JNTO）「ジャパン・トラベルフェア（JTF）」では日本行き航空券の販売数は昨年比2倍に。今回は広島、関東地区（群馬、埼玉、栃木）、沖縄、和歌山の4エリアを重点地域に設定したとのことです。9月に入ってから7～10日にHIS主催の「クール・ジャパン・トラベル・フェア2017」が開催され、また、同期間中にすぐ隣のショッピングモールでは、クラブメッド・日本航空（JAL）・香港上海銀行（HSBC）によるトラベルフェアが開催されました。

## ＜リピーターの増加と地方旅行の人気＞

「クール・ジャパン・トラベル・フェア2017」の最終日に、会場であるタマン・アンクレック・モールに行ってみました。開店時間直後にもかかわらず、早くも多くのお客さんで賑わっていました。日光江戸村、愛知県、愛媛県、北海道などのブースに加え、JR西日本、京成スカイライナー、東京メトロなどの鉄道系も出展していたのが印象的でした。インドネシア人の旅行者の中にはリピーターも多く、東京・大阪・京都を一通り回ったあと、二回目以降は地方旅行を楽しむ、という人も増えています。充実した鉄道網が無いインドネシアの人たちにとっては、鉄道を使った旅行がエンターテインメントの一つなのです。

## ＜休みをきっちりとお国柄＞

日本旅行の需要を支える環境として、日本人と比べると「休みをしっかりと取る」という当地の事情があります。日本人が日本で休みをとる時は同僚に対する「申し訳なさ」もあり最長で5営業日の休みしかとらないケースもまだまだ多いと思いますが、インドネシアは比較的そのあたりはおおらかです。もちろん会社や業界によってさまざまですが、多くの休みを持ち越してしまい使用しないまま権利が消滅することがまだまだ多い日本と違い、インドネシア人は権利を行使し休みを取得する人が多いです。

## ＜リゾート型需要も増加中＞

隣のモールで開催されていたクラブメッド・日本航空（JAL）・香港上海銀行（HSBC）によるトラベルフェアにも行ってみました。こちらはクラブメッドだけあって、いろんな日本を見たいというより、日本でウィンターリゾートを楽しみたい富裕層向にターゲットを絞ったこぢんまりとしたコーナーになっていました。パウダースノーでスキーを楽しむために毎年のように日本へ行くという富裕層もじわじわと増えており、今後その裾野は広がってくると思われる。



(日本の雰囲気を取り入れた会場)



(東京メトロも出展)



(開場直後から目当てのツアー申込みで満席)